

数字で見る

埼玉で農ある暮らし

快晴日数 (平成26年)

365日中 **64**日で日本一多い!



農業産出額 (平成26年)

野菜産出額全国**6**位 花き産出額全国**5**位



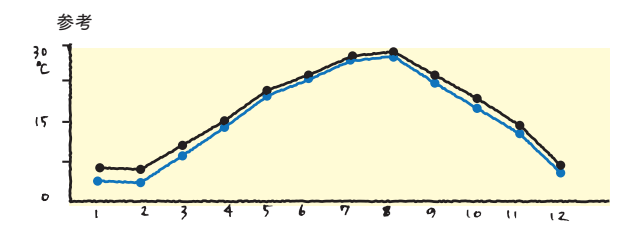
967億円

165億円

平均気温 (気象庁HP/平成26年)

熊谷の年間平均気温 **15.3**℃

東京の年間平均気温 **16.6**℃



農産物直売所 (平成26年)

地元の野菜が食べられる!



県内 **279**箇所

アクセス ※在来線の場合

- ▶ 東松山駅まで 約 **45**分
- ▶ 西武秩父駅まで 約 **80**分
- ▶ 熊谷駅まで 約 **65**分
- ▶ 久喜駅まで 約 **50**分
- ▶ 大宮駅まで 約 **30**分



埼玉で農ある暮らし・移住体験談 [その1]

農にふれる埼玉暮らしビト

越生町 浅見 敦さん・洋子さん
秩父市 井原 愛子さん

埼玉に移り住んで
身近な地域資源を活かし
地域活性化につなげる取組をしている人たちです。



二地域居住から始め 越生にUターン

profile

会社員 二地域居住・週末カフェ 定住

敦さんは越生町出身。東京都内での会社勤務から、東京都出身の洋子さんと結婚後、二地域居住を経て2016年夏から越生町を本拠とする。二地域居住時から洋子さんがカフェ「オクムサ・マルシェ」を営む。



農にふれる
埼玉暮らし
ビト

Case.1

オクムサ・マルシェ

浅見 敦さん 洋子さん [越生町]

Asami Atsushi&Yoko

平日東京勤務、週末オクムサ・マルシェの 二地域居住からスタート

カフェ「オクムサ・マルシェ」は、奥武蔵と呼ばれる地域、越生町にある。のどかな里山が広がり、特に週末はハイキングやサイクリングを楽しむ人たちが集う。

越生町出身の敦さんは東京のデザイン関係の会社に勤務していたが、Uターンを意識し始めたのは洋子さんと結婚してから。当初は「長男だし、いずれは越生町へ帰ろうかな。」と漠然とイメージしていただけだった。

そんな敦さんの背中を押したのは洋子さん。結婚後ほぼ毎月、敦さんの実家に2人で帰るうちに、東京で生まれ育った洋子さんが越生をすっかり気に入ってしまい、洋子さんの方から「早いうちに越生で暮らしたい。」と話し始めるようになったという。敦さんは「妻のおかげでUターンが早まりました。」と当時を振り返る。

とはいえ、いきなりUターンするのではなく、まずは週末のみ越生の実家近くでカフェを始めることにした敦さんと洋子さん。二地域居住を約2年半続けた。

みんなで作くり上げた オクムサ・マルシェ

オクムサ・マルシェはたくさんの方の力を借りて2014年にオープンした。まず建物は、敦さんの地元仲間たちや東京の友人と一緒に、実家のガレージをリノベーションしたもの。「友達に建

楽しみながら協力してくれるご両親と。お父さんはそば打ちと、お母さんは薬膳料理の監修の担当をしています！

オクムサ・マルシェ(土・日・月・火営業)
住所 入間郡越生町小杉756
電話 080-9973-5457

西部地域 [越生町p.44]



築士がいて、設計してくれたんです。」と敦さん。

また、カフェのメニューづくりには、楽しんで協力してくれた敦さんのご両親の存在が欠かせない。お父さんは、得意のそば打ちと、食材となる野菜づくりを担当。お母さんは、カフェを始めると決めた時、特に喜んでくれた。「薬膳料理を勉強してくれたんです。今もランチメニューと一緒に考えるなど、頼りっぴりです。」と洋子さん。



方々など、友達がたくさん集まる。「地元の同世代の仲間を増やし、地域の魅力を発信していきたい。奥武蔵を元気にしたいですね。」と希望を語る敦さん。洋子さんは「この地で子育てするのが楽しみです。育児情報を地域の方々と共有し合えれば。」と話す。

カフェでは、地元の工芸作家がつくった竹細工や、地元農産物を加工したジュースなどをおしゃれに並べて販売している。いずれも2人で埼玉県内を探し歩いて見つけ、自ら交渉して仕入れたものだそう。地道な努力の積み重ねによって、地元とのつながりが深まっている様子が垣間見える。

最近では、越生町周辺に移住したいという人がオクムサ・マルシェに相談に訪れることもある。そのようなお客さんに地域のことを案内できるよう、越生町と近隣地域のパンフレットを収集し、ファイリングしているという。

地元で暮らす人も、越生町を初めて訪れる人も温かく迎えるオクムサ・マルシェは、その名前のとおり奥武蔵で人が集う市場(マルシェ)のような場所である。



仲間の建築士がDIYをリードしてくれて、みんなでガレージをリノベーションしました。



「お母さんには教えてもらうことばかりです。」と嬉しそうな洋子さん

Asami's voice

暮らして気づいた「この地域のよさ」

越生ならではの時間の流れを感じて欲しいです

お試し暮らしできる

いきなり移住を決断しなくても、私たちのように二地域居住をしてみるなど、試しながら働き方や暮らし方を決めることができると思います。

自然とともにある暮らし

都心で育った私は、自然に囲まれた暮らしが新鮮に感じました。季節の行事を大切にしているところも好きです。

お月見にはお団子をつくってお供えしたり、年の瀬にお餅をついたりするんです



地元に戻って 地域の宝を プロデュースしていきたい



農にふれる
埼玉暮らし
ピト

Case.2

メープル ベース
MAPLE BASE

井原 愛子さん [秩父市]

地元のメープルエコツアーから Uターンへ

池袋から特急で最長約80分のところにあ
り、市の約87%が森林という秩父。

秩父市出身の井原さんは、就職を機に秩父
を離れていたが、2014年、NPO法人秩父
百年の森が主催するエコツアーに参加した。そ
の時、豊かな森を守る大切さを実感し、その森
を守っている人たちの想いに感銘を受けた。当
時、外資系企業に勤務し仕事にやりがいを感じ
ていたが、ツアーからわずか3か月で、仕事を
辞めて秩父へUターンすることを決めた。

「秩父のカエデの活動は知ってはいましたが、
初めて参加したツアーで実際に森を歩くと、長
い年月をかけて守ってくれた人たちがいるから
恩恵を被れていることが深く印象に残りまし
た。次の世代に豊かな森を引き継いでいくため
に、自分も一緒に活動を広めたい、次世代の人
たちが関われる仕組みをつくっていきたく
思ったんです。」と井原さんは熱い想いを語っ
た。

みんなでつくったシュガーハウス

カエデの樹液を煮詰めたものがメープルシ
ロップ。井原さんは秩父に戻ることを決めた
後に、カナダでメープルシロップの本場を見
学した。そこで出会ったのがシュガーハウス。



1月下旬頃から3月中旬頃まで、秩父の森の中で
カエデの樹液採取の現場を訪れる見学会
「メープルエコツアー」の様子

てくれた人が、秩父を好きになって
移住したと聞きました。嬉しいです
ね。」と井原さんは微笑む。

地域の宝の商品開発を プロデュース

MAPLE BASEでは、メープ
ルシロップをかけたパンケーキが名物
で、カフェやランチも楽しめる。パン
ケーキには、主に地元で採れた季節
の果物が添えられ、ランチメニューに
は秩父の新鮮な野菜が使われている
。これらは、地元生産者の方々と
のコラボあってこそである。

秩父にシュガーハウスをつくりた
い、という夢が芽生えた井原さん。
「秩父のメープルシロップを商品化
したものが秩父にはありません。そ
れをより多くの方に知ってもら
うためにプロデュースし、シュガーハウ
スをつくって、森の循環を発信する
拠点をつくらう。」と決めたという。
行政や商工会議所の支援を受
け、使われていなかったログハウス
を改修。2016年春に日本初の
シュガーハウス「MAPLE BASE
(メープルベース)」をオープンさせた。
「多くの地元の方が『こんなに
本気なら』と応援、後押ししてく
れました。その協力がなければ、こ
こまでのことはできなかったと思
います。」と井原さんは言う。オー
プンにこぎ着けるまでに、建築家、
造園家、地元企業、学生など、た
くさんの人の力を借りた。ネットで
ボランティアも募ったそうだが、集
まってくれた人たちの中に、予想外
の展開があったとか。「手伝いに来

MAPLE BASEのオープ
ンに先立ち2015年には、森の資源
の商品化やエコツアーの実施を手が
ける「TAPP&SAP」を設立した
井原さん。「これからもMAPLE
BASEを拠点として、秩父の森を
守る大切さを伝えていきたいです。
エコツアーの他、ワークショップなど
も企画していきます。」と語る。
MAPLE BASEの前庭の花
壇には、秩父に自生する21種のカ
エデの苗が植えられた。苗は大き
な木へと成長するであろう。これか
らの井原さんの活動の展開と重な
るように思えた。

profile

会社員 起業

秩父市出身。大学卒業後、外資系企業への就職を
機に都内で生活。2014年に秩父へUターンし翌年
起業。2016年オープンした日本初のシュガーハウス
「MAPLE BASE」を拠点に秩父の自然の恵みを活か
した商品開発やエコツアーの企画に取り組む。

MAPLE BASE
住所 秩父郡小鹿野町長留1129-1
電話 0494・26・6150

秩父地域 [秩父市p.42]



メープルエコツアーにて、カエデの樹液を煮詰める機械
について説明する井原さん

暮らして気づいた「この地域のよさ」

秩父の豊富な資源

メープルはもちろん、秩父には新鮮な野
菜や果物が豊富にあります。地元農産物
をメニューに取り入れるレストランやカ
フェが見受けられます。また、秩父は古
くから銘仙で栄えた町。伝統を残そうと若
い方々が加わってがんばっています。

頼れる人がいた

私の思いを汲んで協力してくれたのは、
NPO法人秩父百年の森を始めとする地元
関連団体、建築関係の方々、地元生産者
さん、秩父市など語り尽くせません。移住
するには、地元で信頼できる人を見つけら
れると安心できると思います。

たくさんの方が
応援してくれました！



Ihara's
voice

埼玉へ 移住までのステップ



埼玉県の移住相談窓口
「埼玉アグリライフサポートセンター」
 ☎ 090-1559-4781 (直通)
 ✉ saitama@furusatokaiki.net
 に相談してみよう。
 希望する暮らし方に合った地域を紹介します。

地域イベントや移住体験ツアー
 埼玉ではじめる農ある暮らし
<http://www.pref.saitama.lg.jp/nouarukurashi/index.html>

農業体験イベント
 グリーン・ツーリズム埼玉
<http://www.pref.saitama.lg.jp/greentourism/index.html>
 などを探して参加しよう。
 地域を歩いたり、地元の人たちと話したりして、まちの雰囲気を感じてみよう。
 地域の様子をよく見て、時には声をかけて地域の生の声を聞いてみましょう。

市町村によっては、「空き家バンク(⇒p57)」や住宅支援制度があります。

1 移住後の暮らし方を思い描いてみよう

子どもたちに食べ物の大切さを教えたいな

今の職場に通える範囲の自然豊かなところで暮らしたいな

2 相談してみよう

4 住宅を見つけよう

仕事を見つけよう

3 何度か行ってみよう

農業に興味のある方は埼玉で就農のステップへ(⇒p22)



現地を実際に目で確かめよう

- 農産物直売所が近い!
- インターチェンジまで近い! 便利!
- 公園の中に図書館があったよ!
- 学校は少人数! みんな仲がいいらしい

埼玉の移住セミナーに参加して市町村の担当者やすでに移住した人と話して地域の情報を直接聞いてみよう。
 そして埼玉県には自分たちに合った地域があるか情報収集してみよう。
 このガイドブック、または「埼玉ではじめる農ある暮らし」移住情報サイトを参考に!
 埼玉ではじめる農ある暮らし
<http://www.pref.saitama.lg.jp/nouarukurashi/index.html>

ヒント

いずれは新鮮な地元野菜をつかったレストランを開きたいなあ

週末は家庭菜園で野菜づくりしたい

今の仕事は続けたい

□どんな暮らしがしたいか?

□移住して変えたくないことは?

□移住して変えてもよいことは?

車があるから家は駅から離れても大丈夫

家族と一緒に考えよう

近くでお買い物ができる家が見つかるかな

通勤時間はどれくらい?

たくさんお友達できるかな

広い公園で遊びたい!